

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270400373		
法人名	NPO法人 高齢者をささえる会		
事業所名	グループホーム伊豆の家		
所在地	静岡県伊東市吉田501番地1		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	令和5年3月30日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=2270400373-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 3年 3月 22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅地に所在し、入居しても、今まで暮らしていた場所と変わらない環境で生活することが可能です。お米は地元農家と契約している為精米したての美味しいお米が大変好評です。天気が良ければ利用者が散歩などに積極的に出掛けられるよう努めております。また設備面においても2ユニットの新築としては静岡の東部地区では1番建物の広さのようですが、広さだけでなく個別のお部屋に電話を引けたり、今までと変わらない暮らしをサポートしております。また尊厳のあるケア、心のケアを静岡東部で一番を目指して運営しております。この地区の1つの家として地域の方が認識してくださっているようで、運動会やイベントの招待、近隣の幼稚園児や小学生、中学生がよく遊びに来て下さっております。近所の方が「自分の将来、介護が必要となったら伊豆の家に入りたい」と心から、そう思ってくださいる運営方針に当ホームは力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営法人は、管理者・ケアワーカー等による幹部会・社員による社員会議・職員全員参加の全体会や研修制度を通して、法人理念に基づいた支援を実践し、「提案改善事項」や面談により職員からの意見交換を図っている。地域住民や行政との関わりが強く、幼稚園・小学生との交流、中学校の職場体験やボランティアの受け入れ、地域のお祭り等の行事参加など、積極的な交流を実践している。新型コロナ感染防止対応として外部との接触、外出・面会等は制限しているが、法人幹部は関係継続を図っている。常勤ケアマネジャー2名は、事業所独自の日誌・記録等の書式を活用して、日々の職員の支援内容と利用者の状態を常に確認しながら、モニタリングや介護計画作成へ結び付けている。食事は、地元農家の米や野菜を取り入れながら、職員が手作りの美味しい食事を提供し、職員と一緒に食べながら、利用者の味や好みを聴き取り、献立作り・行事食作りに反映させている。感染症対策にも注力し、強制換気システムや空気清浄機を設置して清潔な環境作りを心掛けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	正面玄関に理念の文章を掲げ、いつでもどなたにも確認が取れ、理念を勤務の中で意識づけしています。管理者は特に意識をし地域に密着した生活が出来る様に努めます。	理念を掲示し、職員は常に意識しながら支援している。「申し送り」「介護日誌」「夜勤日誌」により、情報共有するとともに、職員の対応に課題が散見された場合は、管理者は都度注意し、必要があれば全体会議にて共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの蔓延により、感染症対策の一環として現在は一時的に交流を中止しているが、地域の一員として近隣にお住まいの方に親しみを感じて頂けるよう意識しています。	コロナ禍の中、訪問・交流は制限しているが、平常時は、幼稚園・小学生との交流、中学校の職場体験受入れ、お祭り等の参加など、積極的な交流を図っている。ボランティアや相談に訪れる住民の訪問は中断しているが、電話等により関係継続を心掛けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの蔓延により、感染症対策の一環として現在は訪問等は一時的にご遠慮して頂いているが、電話等の相談には随時対応しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を行い、利用者の状況や、都度サービスの状況と問題事項の相談等に話し合いを行い意見を聞き現場で生かしています。	コロナ禍の中、運営推進会議は、法人代表・管理者・職員により開催している。家族・行政への参加要請の連絡がないため、家族および伊東市・地域包括支援センター職員の参加がない。理事長は、町内会との関わりが強く、地域代表との意見交換はできている。	運営推進会議は、2か月に1回、行政担当者、地域代表、家族の参加により開催しなければなりません。年間計画を立てて参加者へ連絡の上、会議開催を期待します。コロナ禍により現在は、書面開催が認められているため、資料郵送での開催も認められます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃よりサービスの取り組み、入居者様の相談等を、TELや訪問等において連携に努めています。また非常時の情報や停電などの情報共有もその都度、市担当部署にメールを登録しており、必要な情報の共有が出来るようしています。	市高齢福祉課担当者とは、メール等にて常に連絡が取れる協力関係である。新型コロナ感染防止対策や交付金等の相談を行い、事業所運営の助言を得ている。災害時停電対策として、バッテリー購入に結びつけることができた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3か月に一回以上のペースで開催し職員の研修を行っています。身体的拘束はもちろん言葉による拘束についても理解を深め拘束ゼロを目指しています。また玄関の鍵は日中は使用せず、見守りによって対応しています。	身体拘束廃止委員会は、運営推進会議開催時に行っている。指針・マニュアルを整備して年2回職員研修を行い、身体拘束を行わないケアの実践に努めている。職員は、全体会・社員会において話し合い、声掛け等に配慮した対応を心掛けている。	身体拘束適正化委員会は、職員だけでなく外部・他職種の委員による、単独開催が求められています。運営推進会議開催日と同日の開催でも構いませんが、委員会名簿の整備と委員会単独の議事録作成を期待します。

静岡県(グループホーム伊豆の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会、社員会議等において高齢者虐待防止について話し合いの場を持ち、検討しています。またホーム内において、それに関する事項の回覧を回し職員1人ひとりが意識を高めるようしております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内で過去に成年後見人制度を利用されていた方がいた為、司法書士との連携については問題なく行う事が可能である。また生活保護受給者の方も入居されており、保佐人との話し合いの場もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約、重要事項説明書等を利用者様、ご家族様の方々に十分な説明をし、質問等にも納得のいくように説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の面会時や行事等にご参加の折に、随時、機会を得て意見や要望を把握し、サービスの提供に反映するよう努めています。また満足度調査や利用者様及び利用者ご家族様意見箱を設置し運営に要望を反映している。	毎月、写真付きのお便りを送り、利用者の様子を伝えるとともに、ケアマネジャーの出勤日を事前に知らせ、家族の希望に合わせてケアマネジャーとの面談を設定している。コロナ禍の中でも、ドア越しやオンライン面会など、家族の希望に沿いながら対応できるように心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会や社員会議時に、スタッフの意見を聞き、意見や提案を尊重するよう努めています。また意見や提案は「提案改善事項」として検討しております。	理事長・管理者・ケアワーカー等の幹部は、常に意見交換している。年2回の職員面談や「提案改善事項」の提出により、職員からの意見・提案を聴き取る仕組みがある。提示された意見・提案は、都度幹部が検討し、全体会・社員会議にて情報共有を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境要件及びキャリアパス制度の導入により、やりがいの持てる職場形成に努めている。 またパートタイム有期雇用労働法の施行に伴い、職員が待遇に納得して働き続けられるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルスの蔓延により、感染症対策の一環として現在は外部研修を一時的に中止しているが、内部研修としてケアカンファレンスや管理者によるスキルアップの為のOJTや技術指導を随時行っている。		

静岡県(グループホーム伊豆の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡会や小規模部会などの部会を通じて、積極的に交流会や施設見学会を企画や立案し他事業者との情報交換に努めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に本人に十分にヒアリングを行い、ご本人が不安な場合は何度でも見学が可能です。ご本人が安心された時期をみはからって入所を勧めている。また要望等も可能な限り柔軟な対応で受けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前は原則、ご家族様宅に伺い家族が抱えている問題や不安がないよう可能な限り勤めている。またご家族がこられなくても入所後のご本人の写真を送ったり電話で連絡を入れている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様を中心に、今最も望まれるサービスを選択して頂けるよう、ご本人と家族様の思いをじっくり伺い、安心、満足ある支援を心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者の関係づくりは1つの家族として信頼しあえる間柄であっても尊敬と尊厳を守りつつ築くことに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の日常生活の中でささいな出来事や、事柄に対しても、共通の関心を持ち情報の共有によって連携を持ちながら支援していくことに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までのかかりつけ医、歯科医の通院はもちろん、希望があれば電話も引ける為今までの馴染みの人のと関係が途切れぬよう支援しています。また馴染みの方が来やすいよう面会時間は24時間として支援に努めています。	携帯電話の利用や家族の協力による接骨院や整形外科通院など、今までの生活の継続支援を心掛けている。コロナ禍の中でも、家族の希望に沿ったドア越しやオンライン面会を行い、関係の継続を支援するとともに、訪問美容や利用者・職員との関係作りなど、事業所での暮らしにも配慮している。	

静岡県(グループホーム伊豆の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の特徴に配慮しながら、日常的に職員も利用者同士の間に入り、話題の架け橋に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の病院などに訪問しその際に相談事や悩み等の対応にできる限り努めています。また退去されたご家族様が御相談に来られる事もあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の悩みや話を傾聴し、また、生活の中で利用者様の想いに配慮し、生活し易いよう支援に努めています。 現在は新型コロナウイルスの蔓延に伴い、一時的に中止しているが個人的に出張マッサージ等を受けることもできます。	入居前に利用者や家族の希望や意向を聴き取り、フェイスシートに記載して確認しながら支援している。ケアマネジャーは、家族とのこまめな面談を心掛け、都度、利用者や家族の意向を把握しながら、介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前より様々な情報を得て、その方にあった暮らしを尊重し、居室や生活様式にあまり大きな変化がないよう配慮することに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人、お一人にとって一番居心地のよい生活パターンを把握し、できる限り希望にそえるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々のアセスメントをすることによって正確にニーズを把握し、ご家族も含め、現在の生活を快適に過ごせるよう介護計画をたてて実行しています。	介護計画と介護経過記録を一緒にファイルし、利用者の目標を常に確認しながら記録し、モニタリングや計画作成に反映させている。介護日誌・夜勤日誌のほか、「24時間精神状況変化シート」「日課計画表」など利用者の状態を把握する仕組みを整え、介護計画作成に結び付けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を残すことで日々の気づきを共有し計画にいかしている。カンファレンスを通しケアプランの見直し長期、短期の目標をたてその介護内容を実施し、現場の実践が証明できる記録の作成に努めています。		

静岡県(グループホーム伊豆の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人や御家族の状況に応じて柔軟な対応をとっています。例えば、主治医以外の通院の付き添いや薬の調達を請け負ったり、個人的な買い物をサポートしたりと、独自のサービスを行っています。入院時の洗濯も手伝っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの蔓延により、感染症対策の一環として現在は一時的に交流を中止しているが、地域のボランティアの方々による各種催し物を定期的に鑑賞する事により、楽しんで頂いていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院と連携を結び月2回の往診があります。また特変時には個別の往診も来て頂けます。その際、日頃から病状を把握し、ご家族との情報も交換しあいながら連携をもった関わりをしています。	協力医の月2回往診と看護師が週1回訪問し、利用者の健康を管理している。看護師との24時間オンコール対応により、緊急時の相談・受診体制が整えられている。歯科など他科受診は、家族と連携しながら対応し、受診時の情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と契約し週一回の健康観察があります。またバルーン対応や褥瘡処置など個別の対応が必要な場合、毎日訪問が可能です。24時間看護職との連絡がとれており、適切な相談、受診を受けられる体制が整っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院に関しては、往診主治医がほぼ判断し、入院後もホーム関係者の見舞いや洗濯物等の支援や病院のソーシャルワーカーとも関わりをもち、退院準備や、その後の行き先等の相談などで関わりを持っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できる限り終末期や重度化に向けた支援をしていきます。早い段階からご家族、ご本人の希望を把握し、グループホームでは病院と違い積極的な治療を受けるには不向きであることなど十分に説明した上で方針を共有し支援に努めています。	重度化・終末期の事業所の対応について、入居時に利用者・家族に説明し、同意を得ている。重度化した際には、再度終末期に向けた方針を確認し、協力医や訪問看護師と連携しながら、家族の意向に沿った支援を心掛けている。職員は全体会や研修にて、対応を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に、全体会、研修会を通して、職員が応急手当や初期対応の実践力向上に励んでいます。緊急対応マニュアルにそって緊急度の程度を判断し医療職に繋げるよう夜勤者と社員を中心に行っています。		

静岡県(グループホーム伊豆の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、避難訓練を行い、入居者様への意識付けや昼夜の勤務者が様々な場面での避難の対応が出来る様に繰り返し行っています。地域の方々に関しては、集まりがあった時に協力体制をお願いし承諾を得ている。	年2回、火災想定・夜間想定での避難訓練を行っている。備蓄品は、水・食料品を十分に整え、保管管理している。日頃から地域住民との連携を確認し、災害発生時には地域全体で協力できる関係を築いている。災害時停電対策として、バッテリーを購入した。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時や全体会等において言葉かけや対応の仕方の社員教育を行っています。また、利用者様を尊重し、尊厳する様努めています。	職員の入社時研修と定期的な全体会議にて、接遇の研修を行っている。職員の対応に課題が散見された場合は、都度注意しながら、プライバシーに配慮した対応を心掛けている。利用者の写真利用については、入居時に利用者・家族に説明し、同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話より、利用者様の思いや希望を把握し、職員同士が情報を共有し、自己決定できるよう努めています。また、ケアプラン等にも生かし、ご家族にも情報を伝えています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	良かれと思いつく介助も、ご本人が望まないこともあり、その方の望まれることを見極めてサービスを提供しています。緊急性や命に関わることでない限り規則にはめず、出来るだけ利用者様の気持ちを優先し支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容等に配慮し、服装も利用者様の希望の服を選んでいただき、イベント時にはお化粧などを楽しんでいただいています。外出の難しい利用者様にはカタログなどのお買い物を楽しんで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みの食べ物をなるべく提供し、見た目も楽しめるように工夫していくよう努めます。また刺身の日、土用の丑の日など、季節感とイベント的な食事を毎月提供しています。	食材は地元農家や業務スーパーで調達し、職員が手作りで提供している。昼食と一緒に食べながら好みを聴き取り、利用者の好みに合わせた献立作りに反映している。地域住民からの差し入れを利用したり、毎月食事イベントを行い、季節感のある食事を楽しむ機会を大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は毎食、確認できるよう記録物があり、その様子によって追加摂取したり、補足したりしています。個々の状況により、食材や食形態を検討し、安全で適切な状態での摂取を心掛けています。		

静岡県(グループホーム伊豆の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合った口腔ケアを実施しています。ガーゼ等で磨く場合は清潔保持にも配慮しています。口腔ケアが十分に行えない場合は、口腔ケア用の用品などを使って個別に対応しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をもとに個々の排泄パターンを把握し、できる限り不快感を感じないよう排泄支援しています。また、オムツで入所された利用者様であっても尿意等がある場合は再びトイレにて排泄できるよう支援をしています。	「生活記録」に食事・水分量、排泄状況を記入し、個々の排泄パターンを把握して、夜間ポータブルトイレ利用者も、日中はトイレ利用を促す声掛け・トイレ誘導を心掛けている。入居時に「状態観察記録」と「状態観察表」に記録して、利用者の状態を観察し、事業所での対応を確認する仕組みがある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃より便秘予防の為に食材、水分、運動等に配慮しています。またヨーグルトメーカーにて毎日出来たてのヨーグルトを提供し、その他個別に補助食品として青汁、牛乳、等を追加して摂取しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の体調に合わせて、希望時に入浴できるように努めています。一人ずつお湯を入れ直している為、清潔な上、入浴剤の有無や好きな温度でのんびり入って頂けます。転倒や転落のない様リスクの高い方は二人で介助しています。	週2~3回を目途に午後入浴を基本として、利用者の希望に合わせて午前入浴も実施している。二人介助やシャワーチェアの利用、入浴剤利用や温度管理など、利用者の状態・好みに合わせた支援を行い、ゆったり入浴を楽しむ工夫を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様1人1人の体調を考慮し、動と静のバランスを随時心掛けています。ゆっくりお休み頂けるよう温度管理に留意し、また日中でも体を休めるようフロアにソファなども用意しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在、服薬中の薬の目的、副作用を明示したものを個々のファイルをし各階でスタッフがいつでも見れることができるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の体調や生活パターンに合わせて、食事の支度や片付け、洗濯物量みなど手伝って頂きお礼の言葉を毎回きちんと伝えていきます。野菜の収穫やレクリエーションをしたり、天気の良い日は散歩に出かけたりします。また、歩行訓練等にも努めています。カラオケなども通信でユニットごとに配置しております。		

静岡県(グループホーム伊豆の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人間的な問題もあり、日頃の散歩以外に各自の人に希望にそった外出はできていないが地域のボランティアさんなどが積極的に関わってくださっており、外出支援を積極的に行ってくださっている	コロナ禍により外出イベントは中止しているが、散歩や外気浴の機会を大切にしている。利用者の体調に合わせて、事業所周りのコース1周10分程度の散歩を楽しんでいる。平常時は、近隣住民ボランティアの協力を得ながら実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の理解度の程度により、個々の手持ちのお金を保持されており、満足感や達成感を体験しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者は、理解の程度により居室に電話を引くことができます。また事務所の電話を使用し家族や知人等に電話をかけたり、希望があれば職員が手紙を出したりすることもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節により玄関、掲示板の置物や生花、掲示板を支援し、どなたにとっても色、臭い光等が不快なく過ごせるよう空間作りに努めています。また共有空間はエアコン以外に、床暖房や、天井に除菌機能の空気清浄機をフロアごと3つずつ設置し快適に過ごせるよう配慮している。	季節に合わせた置物や生花を飾り、季節を感じながら過ごしている。日頃から、換気・除菌のため強制換気システムと空気清浄機を設置して、快適な環境作りを心掛けているが、更なる感染症対策として清掃・消毒に注力している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの中に応接セットのソファを用意し、ゆったりと腰かけて他入居者の方々や職員と会話したりくつろげるよう工夫しています。また家具も家庭にいる雰囲気大切にしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具はすべて個人が使用していたものを持参され時計やカレンダー布団、洋服など人それぞれ持ち込まれています。また電話や仏壇を持ち込まれている利用者もいます。	エアコン、ベッド、大きなクローゼットが備えられている居室は、使い慣れた家具や小物を持ちこみ、利用者らしい部屋作りを支援している。体調の変化に合わせて転倒予防に配慮した模様替えや衣替えは、利用者の希望を聴きながら職員が手伝っている。毎日の換気にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、全てバリアフリーとなっており、共有スペースは空間も広く床暖房も設置されており、危険や事故のないよう配慮されています。また広々としている為、1人ひとりの意向にそったしたいことがゆっくり行える環境です。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270400373		
法人名	NPO法人 高齢者をささえる会		
事業所名	グループホーム伊豆の家		
所在地	静岡県伊東市吉田501番地1		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	令和5年3月30日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2270400373-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階
訪問調査日	令和 3年 3月 22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅地に所在し、入居しても、今まで暮らしていた場所と変わらない環境で生活することが可能です。お米は地元農家と契約している為精米したての美味しいお米が大変好評です。天気が良ければ利用者が散歩などに積極的に出掛けられるよう努めております。また設備面においても2ユニットの新築としては静岡の東部地区では1番建物の広さのようですが、広さだけでなく個別のお部屋に電話を引けたり、今までと変わらない暮らしをサポートしております。また尊厳のあるケア、心のケアを静岡東部で一番を目指して運営しております。この地区の1つの家として地域の方が認識してくださっているようで、運動会やイベントの招待、近隣の幼稚園児や小学生、中学生がよく遊びに来て下さっております。近所の方が「自分の将来、介護が必要となったら伊豆の家に入りたい」と心から、そう思ってくださいる運営方針に当ホームは力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	正面玄関に理念の文章を掲げ、いつでもどなたにも確認が取れ、理念を勤務の中で意識づけしています。管理者は特に意識をし地域に密着した生活ができる様に努めます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの蔓延により、感染症対策の一環として現在は一時的に交流を中止しているが、地域の一員として近隣にお住まいの方に親しみを感じて頂けるよう意識しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの蔓延により、感染症対策の一環として現在は訪問等は一時的にご遠慮して頂いているが、電話等の相談には随時対応しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を行い、利用者の状況や、都度サービスの状況と問題事項の相談等に話し合いを行い意見を聞き現場で生かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃よりサービスの取り組み、入居者様の相談等を、TELや訪問等において連携に努めています。また非常時の情報や停電などの情報共有もその都度、市担当部署にメールを登録しており、必要な情報の共有ができるようしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3カ月に一回以上のペースで開催し職員の研修を行っています。身体的拘束はもちろん言葉による拘束についても理解を深め拘束ゼロを目指しています。また玄関の鍵は日中は使用せず、見守りによって対応しています。		

静岡県(グループホーム伊豆の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会、社員会議等において高齢者虐待防止について話し合いの場を持ち、検討しています。またホーム内において、それに関する事項の回覧を回し職員1人ひとりが意識を高めるようしております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内で過去に成年後見人制度を利用されていた方がいた為、司法書士との連携については問題なく行う事が可能である。また生活保護受給者の方も入居されており、保佐人との話し合いの場もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約、重要事項説明書等を利用者様、ご家族様の方々に十分な説明をし、質問等にも納得のいくように説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の面会時や行事等にご参加の折に、随時、機会を得て意見や要望を把握し、サービスの提供に反映するよう努めています。また満足度調査や利用者様及び利用者ご家族様意見箱を設置し運営に要望を反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会や社員会議時に、スタッフの意見を聞き、意見や提案を尊重するよう努めています。また意見や提案は「提案改善事項」として検討しております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	職場環境要件及びキャリアパス制度の導入により、やりがいの持てる職場形成に努めている。 またパートタイム有期雇用労働法の施行に伴い、職員が待遇に納得して働き続けられるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルスの蔓延により、感染症対策の一環として現在は外部研修を一時的に中止しているが、内部研修としてケアカンファレンスや管理者によるスキルアップの為のOJTや技術指導を随時行っている。		

静岡県(グループホーム伊豆の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡会や小規模部会などの部会を通じて、積極的に交流会や施設見学会を企画や立案し他事業者との情報交換に努めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に本人に十分にヒアリングを行い、ご本人が不安な場合は何度でも見学が可能です。ご本人が安心された時期をみはからって入所を勧めている。また要望等も可能な限り柔軟な対応で受けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前は原則、ご家族様宅に伺い家族が抱えている問題や不安がないよう可能な限り勤めている。またご家族がこられなくても入所後のご本人の写真を送ったり電話で連絡を入れている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様を中心に、今最も望まれるサービスを選択して頂けるよう、ご本人と家族様の思いをじっくり伺い、安心、満足ある支援を心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者の関係づくりは1つの家族として信頼しあえる間柄であっても尊敬と尊厳を守りつつ築くことに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の日常生活の中でささいな出来事や、事柄に対しても、共通の関心を持ち情報の共有によって連携を持ちながら支援していくことに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までのかかりつけ医、歯科医の通院はもちろん、希望があれば電話も引ける為今までの馴染みの人との関係が途切れぬよう支援しています。また馴染みの方が来やすいよう面会時間は24時間として支援に努めています。		

静岡県(グループホーム伊豆の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の特徴に配慮しながら、日常的に職員も利用者同士の間に入り、話題の架け橋に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の病院などに訪問しその際に相談事や悩み等の対応にできる限り努めています。また退去されたご家族様が御相談に来られる事もあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の悩みや話を傾聴し、また、生活の中で利用者様の想いに配慮し、生活し易いよう支援に努めています。 現在は新型コロナウイルスの蔓延に伴い、一時的に中止しているが個人的に出張マッサージ等を受けることもできます。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前より様々な情報を得て、その方にあった暮らしを尊重し、居室や生活様式にあまり大きな変化がないよう配慮することに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人、お一人にとって一番居心地のよい生活パターンを把握し、できる限り希望にそえるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々のアセスメントをすることによって正確にニーズを把握し、ご家族も含め、現在の生活を快適に過ごせるよう介護計画をたてて実行しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を残すことで日々の気づきを共有し計画にいかしている。カンファレンスを通しケアプランの見直し長期、短期の目標をたてその介護内容を実施し、現場の実践が証明できる記録の作成に努めています。		

静岡県(グループホーム伊豆の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人や御家族の状況に応じて柔軟な対応をとっています。例えば、主治医以外の通院の付き添いや薬の調達を請け負ったり、個人的な買い物をサポートしたりと、独自のサービスを行っています。入院時の洗濯も手伝っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの蔓延により、感染症対策の一環として現在は一時的に交流を中止しているが、地域のボランティアの方々による各種催し物を定期的に鑑賞する事により、楽しんで頂いていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院と連携を結び月2回の往診があります。また特変時には個別の往診も来て頂きます。その際、日頃から病状を把握し、ご家族との情報も交換しあいながら連携をもった関わりをしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と契約し週一回の健康観察があります。またバルーン対応や褥瘡処置など個別の対応が必要な場合、毎日訪問が可能です。24時間看護職との連絡がとれており、適切な相談、受診を受けられる体制が整っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院に関しては、往診主治医がほぼ判断し、入院後もホーム関係者の見舞いや洗濯物等の支援や病院のソーシャルワーカーとも関わりをもち、退院準備や、その後の行き先等の相談などで関わりを持っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できる限り終末期や重度化に向けた支援をしていきます。早い段階からご家族、ご本人の希望を把握し、グループホームでは病院と違い積極的な治療を受けるには不向きであることなど十分に説明した上で方針を共有し支援に努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に、全体会、研修会を通して、職員が応急手当や初期対応の実践力向上に励んでいます。緊急対応マニュアルにそって緊急度の程度を判断し医療職に繋げるよう夜勤者と社員を中心に行っています。		

静岡県(グループホーム伊豆の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、避難訓練を行い、入居者様への意識付けや昼夜の勤務者が様々な場面での避難の対応が出来る様に繰り返し行っています。地域の方々に関しては、集まりがあった時に協力体制をお願いし承諾を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時や全体会等において言葉かけや対応の仕方の社員教育を行っています。また、利用者様を尊重し、尊厳する様努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話より、利用者様の思いや希望を把握し、職員同士が情報を共有し、自己決定できるよう努めています。また、ケアプラン等にも生かし、ご家族にも情報を伝えていきます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	良かれと思いうる介助も、ご本人が望まないこともあり、その方の望まれることを見極めてサービスを提供しています。緊急性や命に関わることでない限り規則にはめず、出来るだけ利用者様の気持ちを優先し支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容等に配慮し、服装も利用者様の希望の服を選んでいただき、イベント時にはお化粧などを楽しんでいただいています。外出の難しい利用者様にはカタログなどのお買い物を楽しんで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みの食べ物をなるべく提供し、見た目も楽しめるように工夫していくよう努めます。また刺身の日、土用の丑の日など、季節感とイベント的な食事を毎月提供しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は毎食、確認できるよう記録物があり、その様子によって追加摂取したり、補足したりしています。個々の状況により、食材や食形態を検討し、安全で適切な状態での摂取を心掛けています。		

静岡県(グループホーム伊豆の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合った口腔ケアを実施しています。ガーゼ等で磨く場合は清潔保持にも配慮しています。口腔ケアが十分に行えない場合は、口腔ケア用の用品などを使って個別に対応しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をもとに個々の排泄パターンを把握し、できる限り不快感を感じないよう排泄支援しています。また、オムツで入所された利用者様であっても尿意等がある場合は再びトイレにて排泄できるよう支援をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃より便秘予防の為に食材、水分、運動等に配慮しています。またヨーグルトメーカーにて毎日出来たてのヨーグルトを提供し、その他個別に補助食品として青汁、牛乳、等を追加して摂取しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の体調に合わせて、希望時に入浴できるように努めています。一人ずつお湯を入れ直している為、清潔な上、入浴剤の有無や好きな温度でのんびり入って頂けます。転倒や転落のない様リスクの高い方は二人で介助しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様1人1人の体調を考慮し、動と静のバランスを随時心掛けています。ゆっくりお休み頂けるよう温度管理に留意し、また日中でも体を休めるようフロアーにソファーなども用意しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在、服薬中の薬の目的、副作用を明示したものを個々のファイルをし各階でスタッフがいつでも見れることができるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の体調や生活パターンに合わせて、食事の支度や片付け、洗濯物量みなど手伝って頂きお礼の言葉を毎回きちんと伝えていきます。野菜の収穫やレクリエーションをしたり、天気の良い日などは散歩に出かけたりします。また、歩行訓練等にも努めています。カラオケなども通信でユニットごとに配置しております。		

静岡県(グループホーム伊豆の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人間的な問題もあり、日頃の散歩以外に各自の人に希望にそった外出はできていないが地域のボランティアさんなどが積極的に関わってくださっており、外出支援を積極的に行ってくださっている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の理解度の程度により、個々の手持ちのお金を保持されており、満足感や達成感を体験しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者は、理解の程度により居室に電話を引くことができます。また事務所の電話を使用し家族や知人等に電話をかけたり、希望があれば職員が手紙を出したりすることもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節により玄関、掲示板の置物や生花、掲示板を支援し、どなたにとっても色、臭い光等が不快なくすごせるよう空間作りに努めています。また共有空間はエアコン以外に、床暖房や、天井に除菌機能の空気清浄機をフロアごと3つずつ設置し快適にすごせるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの中に応接セットのソファを用意し、ゆったりと腰かけて他入居者の方々や職員と会話したりくつろげるよう工夫しています。また家具も家庭にいる雰囲気大切にしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具はすべて個人が使用していたものを持参され時計やカレンダー布団、洋服など人それぞれ持ち込まれています。また電話や仏壇を持ち込まれている利用者もいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、全てバリアフリーとなっており、共有スペースは空間も広く床暖房も設置されており、危険や事故のないよう配慮されています。また広々としている為、1人ひとりの意向にそったしたいことがゆっくり行える環境です。		